

第40回長野市中学生友好訪中団報告

団長 長野市立裾花中学校長 土屋 次男

【はじめに】

令和7年10月18日(土)～10月24日(金)、第40回長野市中学生友好訪中団が友好都市である中国石家庄市及び北京を訪れ、石家庄市の中学生との交流をはじめ、文化遺産や観光施設を見学しました。参加した10名の中学生は、訪中団の目的である「両都市間の友好親善と次世代を担う若い生徒たちが国際社会で活躍できるよう国際感覚の醸成と国際理解の促進」を実現すべく、直接体験を通して、意欲的に学ぶことができました。古くから日本が学び続けてきた四千年の歴史を有する中国の文化や芸術の奥深さ、そして、実際に今の中国を見て感じるができる貴重な機会になりました。

【10月18日(土) 出発式～羽田空港～北京空港～石家庄市】

7時55分、長野駅オリンピックエンブレム前にて、出発式を行いました。唐木教育次長をはじめ長野市教育委員会の皆様、小林克浩校長会長、各校の校長先生をはじめとした先生方、保護者の皆様が参加してくださいました。

団長から「無事こそ大事」を何よりも大切にしたいと挨拶をしました。続いて、生徒代表挨拶があり、その後、唐木教育次長からご挨拶をいただきました。唐木教育次長は、「体験から学ぶこと、問いをもつことを大切に」とメッセージを送ってくださいました。出発式が終わると、訪中団(団員10名 引率2名)は、8時25分発の新幹線に乗り込みました。

11時15分に羽田空港第3ターミナルに到着しました。多くの人で混雑しており、スーツケースを預けたり、保安検査をしたりするのに時間がかかりました。搭乗ゲートにたどり着いたのは13時過ぎで、飛行機への搭乗開始まで15分くらいしかありません。両替は北京空港で行うことにしました。

エアチャイナの飛行機にはすべてのシートにモニター画面が設置されており、映画などを楽しめるのですが、全て中国語でした。14時頃、予定通り、飛行機が動き出しました。初めて飛行機に乗る生徒は不安そうで、緊張に満ちた表情をしていました。離陸後は安心したようで、美味しそうに機内食を食べていました。

北京空港に18時頃到着しましたが、入国審査と預けた荷物を受け取るのに時間がかかりました。両替を済ませてきた生徒たちがスーツケース受け取りを担当し、他の生徒たちは両替をしに行きました。全員のスーツケースを受け取り、現地スタッフの馬さん、伊さんと会えたのは19時過ぎでした。高速鉄道の駅まではバスで1時間以上かかりました。夕食としてビッグマックセットをいただきました。道路は渋滞していましたが、20時36分発



の列車に乗ることができました。21時53分に石家庄駅に着き、駅舎をバックに記念撮影をしました。バスに乗って、ホテルへ移動し、22時40分ようやくチェックインすることができました。4つ星の高級ホテルでの宿泊です。「家族旅行じゃこんな豪華なホテルに泊まらない」とつぶやいている生徒もいました。

【10月19日(日) 正定古城～石家庄博物院～市長訪問】

7時にレストラン前に集合し、中国での初めての朝食です。バイキング形式で、たくさんの料理が並んでおり、どれを食べるか悩んでしまうほどでした。8時にバスに乗りました。これから石家庄での視察・見学で、馬さん、伊さんに加え、警察の方が同行し、見守ってくださいます。ありがたいことです。

最初の見学地は、正定県の古い寺院と遺跡群です。見学の前に、中国の漢民族の伝統衣装「漢服」を体験しました。貸衣装屋さんで、好みの漢服を選び、メイクや髪飾りを整えていただき、古代中国にタイムスリップです。漢服はゆったりとしたローブ、広い袖、そして独特の重ね着と結び方のシステムが特徴です。漢服に身を包んだまま、陽和楼と臨済寺、正定城壁などを見学して歩きました。12名の漢服行進を観光客の方々も珍しそうに見ていました。漢服で遺跡や寺院を巡って歩いていると、違う時間が流れているように感じました。

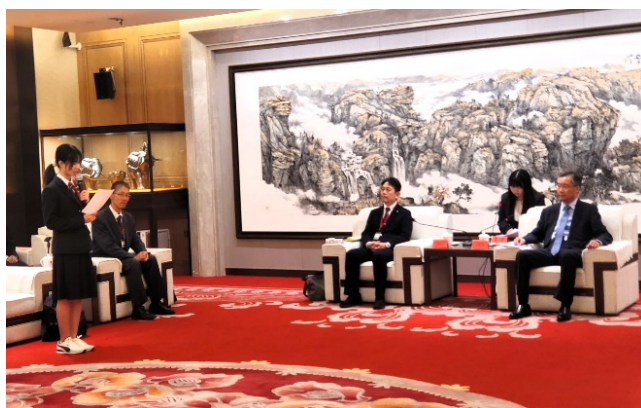


午後は、石家庄博物院の見学です。約2500年前の戦国時代、そして、漢の時代の芸術的な工芸品の展示を見学しました。「長信宮灯」は、漢の時代の宮女が、膝をついて座り、右手でランプの上部を、左手で下部を支えています。宮女の袖と体が内部でつながっていて、火を灯すと、煙やすすは右腕から体内に入り、宮女の体の底部へと落ちていく作りになっています。この工夫により、きれいな空気を保つことができるようになっているのです。実用性と芸術性を兼ね備えた燭台から中国古代の技術の素晴らしさが伝わってきました。



前漢時代の「金銅博山香炉」の高い芸術性にも感動しました。その形状は壮麗で、幾重にも峰を連ねる山々を思わせ、人や動物の姿が神秘性を高めています。動と静、複雑さと簡素さの対比が非常に高いレベルで表現されています。前漢時代の高度な美術工芸の力を思い知らされました。

見学終了後、石家庄市長を表敬訪問しました。当初は副市長さんへの訪問の予定でしたが、新たに市長となられる王現坤さんが都合をつけてくださいました。1200万都市の市長らしく挨拶の言葉、語り口ともに、風格と気品に満ちていました。市長さんの他に秘書長の宋国宏さん、外事弁公室主任の権輝さん、教育局副局長の趙永世さんをはじめとした石家庄市人民政府の方々も同席されていました。





歓迎晩餐会では、市長さんの隣の席で、歓談しながら食事をしました。スープの表面には英語で「ROCK HOME TOWN」の文字がありました。これは石家荘を英語で表現したのだそうです。日本の教育情勢について関心が高いようで、学校規模やカリキュラム、一人一台端末の活用などの話題が出ました。また、石家荘市に室内スキー場ができたこと、老子道徳経なども話題となりました。

【10月20日(月) 石家荘第40中学～卓球訓練基地～外事弁公室主催送別会】

2日目の午前は、第40中学校との交流です。生徒数5400人、教職員数357人の大規模校です。9時に到着すると、李亜楠校長先生をはじめ、先生方が迎え入れてくださいました。応接室に移動するまでに、教室での授業の様子が廊下から見えました。50人近い生徒が先生の講義を受ける授業でした。応接室で、スライドを見ながら第40中学校の様子を説明していただきました。教育課程、学校行事、生徒の進学先や功績などを示していただきました。

その後、校舎見学です。科学棟、技能教科棟など、教科ごとに別の校舎があって驚きました。科学棟では、「魔法靴工場」と題して、自分の足の特徴を科学的に分析し、自分に合った靴を自分でデザインし、創作するSTEAM教育が展開されていました。またAIやVRについて学習する教室、ドローンを教材に航空科学について学習する教室、3Dプリンターで立体の作品を創作する教室など最先端の実習・実験ができる環境が用意されていました。

校舎見学のあと、歓迎会が行われました。訪中団は「僕のこと」と「君をのせて」を歌いました。中国の生徒は歌と舞踊を披露しました。その後、体験授業に案内されました。体育と音楽に分かれて参加しました。体育の授業は人工芝が敷き詰められた全天候グラウンドで行われていました。6クラスほど、約300人の生徒が同時に授業を進めていました。ランニング、筋トレなどを行った後、縄跳びやバスケットボールのドリブルなどの基礎的な運動を行っていました。

音楽の授業は、歌詞や歌い方の説明を先生がした後、指示に従ってクラス全員で斉唱するスタイルでした。生徒たちはいい声で歌っていました。音楽も講義型授業で、日本との違いに驚きました。どの教室でも第40中学校の生徒たちは大変真面目に授業を受けており、日本の中学生に見られるような居眠りや私語は目にすることがありませんでした。





給食は食堂で食べます。バイキング形式のように料理が用意されており、生徒たちはセルフサービスで盛り付けます。たくさんの生徒たちが列をつくって盛り付け、テーブルで食べている姿は圧巻でした。給食メニューは充実しており、味付けも日本人にも全く違和感がなく、美味しい給食でした。

校舎内には孔子や老子の像が立っており、古代からの教えが随所に掲示されていました。また、中国の歴史がパネルで展示されており、抗日の歴史のパネルもありました。

しかし、第40中学校の先生方や生徒から反日的な感情は一切感じられず、非常に友好的な雰囲気を感じました。

午後は、正定県にある卓球訓練基地を見学しました。中国全土から集まった生徒たちが全寮制で寝食を共にしながら卓球の練習に励んでいます。基地内には学校もあり、授業もここで受けています。まず、展示物の説明を受けました。この基地で学び、オリンピックや世界選手権で活躍した様子、海外からの選手や合宿を受け入れている様子などが写真と共に紹介されていました。福原愛選手も留学していたそうです。



体育館は複数あり、私たちは男子の小中学生が練習しているところを見学しました。スピード感にあふれたラリーが繰り返されており、一人一人の技能の高さに目を見張りました。日本に10年間滞在し、ナショナルコーチも務めたことがある成紅光さんが日本語で説明してくださいました。



この後、「北国先天下」というショッピングモールの地下にあるスーパーマーケットで買い物をしました。日本でいえば「デパ地下」です。石家庄のお土産を買うのに最適な場所でした。夕食は、外事弁公室主催の送別会で、宿泊したホテルにある「紅魚湾」というレストランでした。孟碩副主任が中心となり、ご招待いただきました。



【10月21日(火) 石家庄動物園～北京王府井】

朝食後の8時、3日ぶりに重いスーツケースを転がしてロビーに集合しました。石家庄市動物園の見学に出かけます。動物園は広大な面積を誇り、園内を車で移動します。2台のオープンカーに分かれて

乗り込みました。最初にフラミンゴの群れが迎えてくれました。次に、サルの仲間を見ました。長野市から贈られたチンパンジーの子孫がいました。ドラミングをしている姿は迫力がありました。

お目当てのパンダは、歩き回る姿がとてかわいく、歩く方向に生徒たちも移動しながら、観察と撮影です。パンダの飼育舎にはパンダグッズのお店があり、生徒たちはお土産を買っていました。パンダの食事タイムとなると、生徒たちは再びパンダの様子を見に来ました。



パンダを堪能した後、ライオンやヒョウ、トラを見学しました。夜行性のため、みんな寝ていました。大きなトラ3匹が寄り添って寝ている姿を見ると、やっぱりネコの仲間なんだと納得できました。最後に鳥の飼育舎で餌付けをしました。色彩豊かなインコやオウム仲間がたくさんいて、手のひらにヒマワリの種を置いておくと、手の上に止まって食べてくれます。一度の3羽も手に乗せている生徒もいました。



動物園を後にして、近くのホテルのレストランで中華料理のランチです。石家荘での最後の食事ということもあり、感想発表会を行いました。一人30秒から1分で石家荘市での感想を述べてもらいました。第40中学校視察の感想を述べている生徒が多かったです。

「校舎が大きくて驚いた」

「科学棟という校舎で最新技術を活用して自分で靴を製作しているのがすごいと思った」

「VRやAIなど先進的な技術を学ぶ授業、施設があつてすごかった」

「中国の中学生は英語が上手で刺激になった。英語の勉強にやる気が出てきた」

「中国の中学生がフレンドリーで親切で優しかった」

「落とした財布が戻ってきて嬉しかったし驚いた。ちゃんと届けていただき、この親切を一生忘れない」

「石家荘博物院の工芸品などの展示物に中国の歴史が刻まれていた。2500年前の戦国時代のものから始まり、日本に伝わってきているものあつてすごいと思った」

「漢民族の衣装を着ることができて楽しかったが、頭と肩が重かった」

「卓球訓練基地の生徒は卓球がうまくて、相手をした私たちは笑われてしまった」

「これから北京に行くけど、目的をはっきりさせて見学していきたい」

などの感想が出されました。

高速鉄道に乗って北京に向かうために、石家荘駅に行きました。3日間お世話になったバスの運転手さん、警察の方とお別れです。14時19分発の北京西駅行き的高速鉄道に乗りました。窓の外から見える景色は一面の畑です。石家荘と北京の間に都市や大きな集落はなく、ポツンポツンと農家らしき建物があるだけでした。大都市集中型の国になっていると感じました。

北京西駅に着くと、バスまで移動です。北京は車のクラクションの音が響いていました。道路は人よりも車優先の社会のようです。よそ見やスマホを見ながら歩いているとクラクションを鳴らされ、よけないと車やバイクが突っ込んでくる恐れがあります。生徒たちに注意喚起しながらバスまでたどり着きました。

北京での最初の見学地は王府井です。王府井は中国最大の繁華街と言えるほど有名で、海外だけでなく中国各地から多くの観光客が集まる人気スポットです。日本で言えば銀座でしょう。夕食も王府井でとるので、時間まで買い物を楽しみました。本屋の入り口近くの目立つ場所には習近平主席の著作や関係書物がずらりと並んでいました。生徒たちは、漫画コミック本コーナー、絵本コーナーに群がっていました。お気に入りの漫画や絵本の中国語版を購入し、中国語の勉強に役立てるようです。



夕食はしゃぶしゃぶでした。肉をはじめとした具材がたっぷりあり、食べきれないほどでした。夕食後、ホテルへ向かいましたが、王府井からは遠く、チェックインしたのは21時45分でした。

【10月22日(水) 天安門広場～故宮～天壇公園】

8時に天安門広場と故宮の見学に出かけました。バスから降りた後、かなり歩いて移動します。天安門広場と故宮の警備体制は厳重です。歩きながら何回かパスポートの提示を求められました。そして、天安門広場の入口では、複数回、手荷物検査が行われます。大変混み合っていて大行列ができていました。30分以上待って、ようやく最後の検査です。荷物はX線検査だけでなく、中を開けて、すべて調べられます。また、



ボディチェックも厳重で、両腕を挙げて、体中を触られて調べられます。生徒たちはサインペンや蛍光ペンを没収されました。私は付箋を没収されました。落書きやシールなどの貼り付け防止のようです。

保安検査を通過すると、故宮の入口である天安門とダイナミックな噴水が目に入り、感動しました。生徒たちと記念撮影をしながら、全員が通過してくるのを待ちました。人が多く、民族色も豊かです。毛沢東の巨大な肖像画が掲げられた天安門をくぐる時、ここでも荷物検査とボディチェックがありました。そして再び、大行列です。天安門から故宮の中に入ると、壮大な建築物が立ち並んでいました。日本では見たことがないスケールの大きさに声が出なくなるほどの感動です。映画「ラストエンペラー」の撮影地になったことでも有名です。この様子をしっかりと記録しておきたいと思い、自撮り棒の先に360度カメラを取り付け、撮影しながら歩きましたが、誰にも注意されませんでした。スリなどの盗難の心配、反日的な雰囲気も感じられませんでした。広大な故宮で皇帝が優雅に暮らす姿を思い浮かべながら歩きました。





午後は天壇公園を見学しました。明と清の皇帝が天に生贄を捧げ、豊作と雨を祈った場所であり、現存する中国最大の古代祭祀建築群です。円形の建物、円錐の屋根が特徴です。ここも故宮同様、たくさんの観光客であふれていました。人ごみを避けるようにしながら記念撮影をしました。出口付近に本日の入場者数が電光掲示板に表示されていました。午後5時27分時点で19,509人でした。

夕食は、焼き肉でした。昨夜のしゃぶしゃぶ同様、日本人の口に合う味付けです。店員さんがテーブルの上で焼いてくれます。煙を吸い込む仕組みもしっかりしており、においが気になりませんでした。

【10月23日(木) 万里の長城～頤和園】

8時にホテルを出発し、バスで1時間ほど走ると、だんだん山の中を進むようになりました。車中から万里の長城が見えた瞬間、険しい山の尾根伝いに城壁が連なっている光景に背筋が震えるほど感動しました。万里の長城もたくさんの人であふれていました。城壁の上をたくさんの観光客に交じって歩いていきました。道のりは険しく、急斜面もありました。寒さが心配されたのですが、天候に恵まれ、汗ばむほどでした。山の尾根に沿って、どこまでも城壁が続く雄大な光景は壮観でした。そして中国四千年の歴史を感じさせる景色でもありました。1時間半ほど歩いて、下城通路で引き返し始めました。



午後は頤和園の見学です。頤和園は、中国最大級の皇室庭園で、世界遺産にも登録されています。清朝の乾隆帝が母の還暦祝いに造営した庭園で、壮麗な景観と歴史的価値を誇ります。西太后が住んでいたことでも有名です。宮殿のような建築群が丘の上に建てられており、階段を上って入場して行きました。上からは北京の街並みが一望できました。下っていくと、湖が見えてきました。湖面には舟が浮かんでいました。湖畔に出ると、ここもたくさんの人でにぎわっていました。湖と中国らしい塔や橋などの建



築群が生み出す光景は優雅で歴史を感じさせてくれました。最後の見学地にふさわしい美しい場所でした。生徒たちは、帰りたくない、もっと中国にいたいと口々に言い出しています。

最後の夕食は中華料理でした。シェフが北京ダックを切り分け、お皿に盛りつけてくれました。これは絶品でした。最後の中華料理を堪能しながら、一人一人がこの旅の感想を発表しました。中国への見方が変わったこと、おもてなしの心に感動したことなどが、具体的なエピソードとともに語られました。一人一人の体験に基づく感想だけに共感できる言葉が並びました。最後に石家庄市の外事弁公司として私たちを案内してくださった馬さん、伊さんをお呼びし、一人一人からお礼の言葉を述べました。



「言葉が通じないことに困惑したり、不安を抱いたりしましたが、言葉や文化の違いがあっても馬さんや伊さんをはじめ、たくさんの方が安全なたびになるように寄り添ってくれて、今ではもっと中国にいたい!とも思っています。貴重な体験をすることができました。本当にありがとうございます」

このような言葉が一人一人から発せられました。そして、別れを惜しんで生徒たちは涙を流していました。夕食後、空港の近くのホテルにチェックインしました。アルパカがいるホテルです。部屋にはバナナ、ミカンなどのフルーツとヨーグルトが置いてありました。明日の朝は4時40分にロビーに集合です。

【10月24日(金) 北京～羽田空港～長野市】

予定時刻に全員が集まりました。スーツケースの重量オーバーなど心配されましたが、問題なく荷物を預け、保安検査を通過できました。予定通りの時刻に離陸し、機内食を美味しくいただき、順調に羽田空港に到着しました。スーツケースを運びながらの移動に生徒たちも慣れてきたようで、トラブルなく長野駅に着くことができました。長野駅には教育委員会や保護者の皆様が迎えに来てくれていました。「無事こそ大事」の目標を達成でき、一安心です。一週間、寝食を共にした仲間と別れ、帰宅しました。

【終わりに】

今回の訪中では、中国と日本のつながりを探すように課題を出していました。生徒たちはそれぞれに感じるものがあったようです。日本で、おもてなしの心が大切にされていますが、中国の方々のおもてなしに感動する生徒が多く、心のつながりを感じました。そして、誰もが中国に対するイメージが変わった、中国に対して負のイメージを持っている人は一度行ってみたほうがいいと感じるようになりました。私もまったく同感です。最初はホームシックにかかりそうな生徒もいましたが、もっと中国にいたい、仲間と一緒にいたいと言うようになりました。小さなトラブルは多々ありましたが、それも失敗から学ぶ貴重な体験となり、忘れることができない思い出、そして一人一人が大きく成長できた7日間となりました。

第 40 回 長野市中学生友好訪中団名簿

派遣先：石家庄市（中華人民共和国河北省）ほか

派遣期間：令和 7 年 10 月 18 日（土）から 10 月 24 日（金）まで

派遣人数：中学生 10 名、引率者 2 名

区分	氏 名	カ ナ	学校名等	役職・学年
団長	土屋 次男	ツチヤ ツギオ	裾花中学校	校長
副団長	牧野 健一	マキノ ケンイチ	学校教育課	課長補佐
団員	丸山 心陽	マルヤマ コハル	櫻ヶ岡中学校	2 年生
団員	岡田 貫汰	オカダ カンタ	三陽中学校	2 年生
団員	松本 ゆらら	マツモト ユララ	東北中学校	2 年生
団員	小林 香介	コバヤシ コウスケ	裾花中学校	2 年生
団員	今井 悠人	イマイ ユウト	篠ノ井西中学校	2 年生
団員	高山 夢叶	タカヤマ ユカナ	川中島中学校	2 年生
団員	鈴木 彩々美	スズキ アサミ	更北中学校	2 年生
団員	大日方 希羽	オビナタ キワ	戸隠中学校	2 年生
団員	久野 媛子	ヒサノ ヒメコ	大岡中学校	2 年生
団員	馬場 結子	ババ ユイコ	市立長野中学校	2 年生

第 40 回長野市中中学生友好訪中団 スケジュール

日 時	内 容	宿 泊
10 月 18 日 (土)	7:55 集合	石家庄国際大厦 長安区中山東路301 0311-85919999
	8:25 長野駅発 (あさま 610 号)	
	11:03 羽田空港第 3 ターミナル着、出国手続き	
	14:00 羽田空港 (東京国際空港) 発 (CA182 便)	
	16:45 北京首都国際空港着、中国入国手続き	
	18:00 夕食購入、北京西駅へ移動 (バス約 1 時間)	
	20:36 石家庄市へ移動 (高鉄 D995)	
	21:53 石家庄市着、ホテルへ移動	
10 月 19 日 (日)	22:40 ホテルチェックイン	同上
	8:00 正定県陽和楼へ移動	
	8:30 中国伝統文化体験 (漢民族伝統衣装体験)	
	12:30 昼食 (ホテル)	
	15:00 河北博物院へ移動、視察	
	17:30 王現坤市長表敬	
10 月 20 日 (月)	18:00 王現坤市長主催歓迎会	同上
	8:30 石家庄市第 40 中学校訪問交流	
	12:00 昼食 (学校食堂)	
	14:30 正定県卓球訓練基地へ移動、視察	
	17:30 買い物	
10 月 21 日 (火)	18:30 外事弁公室主催送別会	北京雲臻金陵蓮花酒店 Yunzhen Jinling Lianhua Hotel 北京豊台区蓮花池南路 1 号院 1 号楼 010-5165 5520
	8:00 ホテルチェックアウト、移動	
	8:30 石家庄市動物園視察	
	11:30 昼食	
	14:30 北京市へ移動 (高鉄 G802)	
	15:30 北京西駅着	
	16:30 北京王府井視察 (バス移動)	
	18:00 夕食 (王府井付近)	
10 月 22 日 (水)	20:00 ホテルチェックイン	同上
	8:00 天安門広場、故宮博物院へ移動、視察	
	12:00 昼食	
	13:00 天壇公園へ移動、視察	
	18:00 夕食	
10 月 23 日 (木)	20:00 ホテルチェックイン	北京遠航国際酒店 (Airprot YUANHANG International Hotel) 北京順義区府前街1号 010-84166060
	8:00 万里の長城へバス移動	
	9:30 万里の長城の八達嶺視察	
	12:00 昼食 (八達嶺付近)	
	13:00 頤和園へ移動、視察	
10 月 24 日 (金)	18:00 夕食	-
	5:00 チェックアウト、朝食はランチボックス	
	5:40 空港へ移動、中国出国手続き	
	8:05 北京首都国際空港発 T3 (CA181 便)	
	12:25 羽田空港 (東京国際空港) 着、入国手続き	
	15:04 東京発 (あさま 617 号)	
	16:46 長野駅着	

第 40 回長野市中学生友好訪中団派遣を通して学んだこと

長野市立櫻ヶ岡中学校 丸山 心陽

私はこの訪中団で友好都市の中国で学んだことは、言葉が通じなくてもしぐさ表情や態度で気持ちが通じ合えるということです。また、噂やその国の印象やイメージでそのくにの偏見を決めつけてはいけないということです。

私は、この中国の第 40 中学校で私たちを最初に温かく歓迎してくれました。また歓迎会に向かう前にはじめましての私たちを差別なく優しく手をとって案内してくれた事がとても印象的でした。本当嬉しかったです。また、中国人の生徒さん達は本当に英語がぺらぺらで圧倒されました。

私は英語が苦手で全く話せなかったけど、ジェスチャーや表情などでコミュニケーションをとる事が出来ました。また、中国人の生徒の皆さんは本当に優しくていつもニコニコでとっても素敵でした。そして私が体育の授業を実際に体験しているとき、こうやってやるんだよとか、頑張れなどの言葉をかけてくれていて本当に嬉しかったです。こんなことばが通じないわたしたちでもコミュニケーションが取れる事を学べて本当にうれしく思うとともに、中国の生徒さん達が本当に優しくしてくれて、とても感動しました。

そして、また私は最初中国に行く前は、中国という国に対し少し怖く、治安が悪い場所という、あまり良い印象を持っていませんでした。でも実際に中国に行ってみると全く違って周りのみんなはどんな時でもやさしく接してくれるし困った時には助けていただくこともありました。なので中国を離れるのは、とてもさびしかったしずっとここに住んでいてもいいと思ってしまうような素敵な国でした。



なので私達がこの一生に一度のこの経験を今後の生活に活用しなくてはならないと強く思いました。また、この中国に行きたくてもいけなかった人達や、中国にまだ行ってない人たちの中国という国の偏見をこの私達訪中団 10 人が変えていかななくてはならないと思いました。中国でしか味わえない良さや中国の伝統の良さなどを伝えていきます。このような貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。謝謝

中国を訪問して学んだ感想

長野市立三陽中学校 岡田 貫汰

私は、第40回長野市中学生友好訪中団の一員として長野市の友好都市である中国・石家庄市、首都の北京市を訪れてきました。中国では、ここだけでは言い表せないたくさんの経験、驚き、喜び、そしてかけがえのない思い出と大切な友達が出来ました。今回は、中でも心に残っていることを2つ紹介します。

1つ目は、オールドメディアで報道されていることだけがすべてではないという事です。テレビのニュース番組を見てみると、中国と日本は対立関係にあるとかそういった情報が流れてきます。私も、自分から訪中団の一員になりたいと立候補した身でありながらそういったニュースを見ると不安になることもありました。しかし！実際に行って見ると外事弁公室のお二人、現地の学生、ホテルやお店のスタッフの方をはじめ、たくさんの人に良くしていただきました。それを受けて、帰ってくる頃には私の印象はすっかり変わっていました。やはり、実際に自分の目で見て、肌で触れ、心で感じたからこそ印象が変わったのだと思いました。

2つ目は、治安の良さです。こちらもやはりテレビなどの影響からか、治安があまりよくないと感じていました。しかし、この印象もすっかり変わる出来事がありました。私は3日目の夜に行ったデパ地下に財布を忘れてきてしまったのです。そして、それに気が付いたのは次の日の朝。中には中国元、日本円合わせて総額約3万円。完全に思考が停止しました。慌てて外事弁公室の方に申し出てデパ地下に連絡していただき約2時間後、無事あったとの連絡が。さらに、デパ地下から20kmほど離れた動物園まで現地の警察官が届けてくださったのです。

今回の旅では、たくさんの人の優しさがあったからこそ最後まで楽しんでこれたのだと思います。また、たくさんの方と交流したこの経験は、これからの人生に大いに役立つ貴重な経験となりました。このような貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

中国に行って学んだ事

長野市立東北中学校 松本 ゆらら

私は海外に行った事がなく、最初は楽しみよりも不安な気持ちが強くて、大丈夫かな、と思っていました。でも、私は、訪中団のみんなと観光、交流をしていくにつれて、不安な気持ちは全くなく、いつの間にか帰りたくない、まだ中国にいたいという気持ちに変わっていました。

中国と日本は、伝統も文化も言語も、さまざまなところが違いますが、嬉しさなど、幸せな気持ちは通じ合うことができます。

中国の方々はおもてなしがすごくてびっくりしました。私が楽しみでもあり、不安でもあった石家庄市の中学校は、話が通じるのか、友達は出来るのかと、とても緊張していた私の手を優しく引いてくれました。

笑顔で接してくれる生徒の温もりのおかげで、私の緊張はすぐに解けていきました。あっという間だったけど、心が温くなる幸せなひとときでした。

最後に実際に行ってみると、そこには温かく迎えてくれる人たちの笑顔があり、私の中国に向けての印象は大きく変わりました。中国でさまざまな事を経験し、多くの人と交流し、訪中団のみんなと協力し合ったこの訪問は、私にとって人生を変える大きなきっかけになりました。本当に行ってよかったです！



一週間の中国訪問を通して学んだこと

長野市立裾花中学校 小林 香介

今回の中国訪問は自分にとってかけがえのない大切な体験となりました。渡航前は、ニュースやいろいろな情報を見て中国に対していいイメージが無かったり、渡航に対しての不安などの気持ちがありましたが、出国後はそんな気持ちは最高の思い出へと変わっていました。

さらに学習会の時に中国の事について一緒に学んだ友達とも、中国の訪問を通して親友ほどまで仲良くなることができました。僕がこの訪問で学んだこと、感じたこと、体験したこと、目にしたことはすべて初めてでとても貴重な経験となりました。その中でも、三つの事が印象に残っています。

一つ目はコミュニケーションの大切さです。言語が違う環境で過ごす中でコミュニケーションの大切さを感じました。旅の三日目には石家庄市第 40 中学校の学生さんと交流をさせていただきました。学生さんは校長先生と共に拍手しながら僕たちを迎えてくださいました。僕は、第 40 中学校の学生さんと一緒に体育の授業に参加させてもらったり給食を一緒に食べたりと、たくさん関わっていく中でコミュニケーションとるのはものすごく大変なことだと感じました。中国語はもちろん伝わらなくて、しかもほぼ全員の学生さんが英語で話していて、中国語で話しているところを見る方が少なく感じました。僕は英語が大の苦手で、コミュニケーションをとることは難しかったです。授業で実際に関わった学生さんは、同じ中学生とは思えないほど英語が達者で聞き取るのすら難しかったです。しかし、手を引いてジェスチャーなどで説明してくれたり、お手本を見せてくれたりして楽しく交流することができました。訪問する前は言語が違う環境に不安をもっていました、たとえ言語が違ってもジェスチャーや表現の工夫で交流することができるし、カタコトの英語でもしっかり伝えようという思いがあれば伝わるのだなと感ずることが出来ました。この機会を通して中国の学生、人の温かさを大いに感ずることができました。

二つ目は中国の歴史についてです。今回の旅では万里の長城や頤和園などに行って中国の歴史の長さ、壮大さを感じました。中国は日本の倍くらい昔から多くの歴史があります。ですが、それと同時に現代の中国のすごさも体感することができました。今の中国はたくさんの商業施設、大きなビルなどが街中にあり、日本の倍以上発展していました。三日目にはホテル近くのスーパーに買い物に行きました。買い物を終えてレジに向かいお会計をしようとする、ほとんどがキ

キャッシュレスで現金が伝わるレジが一個しかありませんでした。中国の96%がキャッシュレス化していることを知って、中国の技術の高さとスケールの大きさに驚きました。

三つ目は実際に自分の目で確かめることの大切さです。訪中団に行く前は、ネットでの情報や中国での反日活動が日本で話題になっていたこともあり、僕は中国に対して正直良いイメージを持っていなかったですし、中国の方々に歓迎してもらえるのか不安でした。ですが、訪中団に行きその考えが間違っていることに気づきました。実際に行った中国の都市は、写真で見るより何倍もきれいでした。自分が思っているような日本に反感を持っている方などは一人もいなくて、一緒に交流した方々はとても優しく接してくれました。ネットや世間の考えを鵜呑みにするのではなく、しっかり自分の目で確かめることを大事にしていかなければいけないと感じました。

訪中団を通して、沢山の方々に出会い、沢山の事を経験し、学ぶことが出来ました。中国は言語も文化も歴史も違いますが、日本と同じおもてなし、温かく優しい心の文化は全く同じでした。一週間という短い間で中国という国を12人で体験することができて良かったです。

最後になりますが、中国でお世話になった石家州市外事弁公室の皆様、一週間一緒に過ごした訪中団のみんな、支えてくださった長野市の皆様、このような機会をくれた方々には感謝しかありません。本当にありがとうございました。

中国を訪問して学んだこと

長野市立篠ノ井西中学校 今井 悠人

私たち長野市中学生友好訪中団は、10月18日に長野駅を出発し、中国を訪問しました。初めて訪中団の説明会に行きメンバーにあったときや、中国へ行くことが決まったときは、中国に対してあまりいいニュースを見てなかったのも、不安や心配も多くありました。ですが、中国について北京空港からホテルに向かうバスの中ではすでに全員が仲良くなっていました。1日目は日本から中国への移動で終わり、訪問は2日目から本格的に始まりました。1日目は西定陽和楼で漢民族文化衣装体験をしました。また、その衣装で街中や伝統的な建物を見学しました。そして、午後には河北博物院へ移動し中国の漢時代の展示物について学びました。夜には、市長表敬をし、市長主催の歓迎会に参加しました。3日目には、石家庄市第40中学校に訪問し、生徒と交流しました。日本の中学校とは違って規模が大きく生徒数が多いので、設備が整っていました。また、中学校を出るときには両手でも持ちきれないほどの量のお土産をいただき、中にはお椀などの高級なものも入っていました。午後には、卓球訓練基地に行き、卓球王国である中国の卓球の歴史について学び、実際に体験しました。そして、その夜にはホテルの近くにあるデパートで初めてのお買い物タイムがありました。空港で換金した中国元を初めて使い、レシートやエコバックもとても貴重なものに思えました。その夜には紅魚湾というレストランで食事をとりました。そして、4日目の朝には3日間お世話になったホテルをチェックアウトして、動物園を視察しました。動物園では中国の有名なパンダだけではなくさまざまな動物を見ることができました。動物園内のお土産ショップでは大量のパンダグッズを買いました。昼食は動物園の近くのレストランでとり、北京市へ移動しました。北京市では王府井を視察して、夕食を取り、新しいホテルにチェックインしました。5日目は天安門広場と天壇公園という2つの世界遺産を訪れ、視察しました。6日目は万里の長城に上り、頤和園という世界遺産を訪れました。万里の長城は想像よりも傾斜が激しく、人がとても多かったのも、上るときも下るときもとても疲れました。7日目の朝には北京空港に出発し、飛行機に乗りました。飛行機の中では、とても豪華な機内食を食べることができて、飛行機の中とは思えないほど快適に自由に過ごすことができました。今回の友好訪中団の旅では、中国に対する自分の考えと実際の中国の様子にギャップを感じるのとともに、日本の凄さを感じる旅でもありました。中国の駐車場では日本の車のメーカーがあちこちでみられ、カメラやエレベーター、レジに様々な日本の企業の名前が書いてありました。インターネットで調べたときは、あまりいい印象はなかったけど、実際に行ってみないとわからないような文化の違いや面白さに気づくことができて良かったです。また、今回の訪中団の旅は、様々な人が支えてくれました。石家庄市では、どこに行くにしても私服警官が警備についてくれていて、移動するときにも通訳をしてくれる人が常に先頭に立って先導してくれていて、どれだけ感謝しても足りないほどのことをしていただきました。今回の旅では沢山の貴重な体験をして、とても楽しかったです。

中国に行って気づいた“新しい世界”

長野市立川中島中学校 高山 夢叶

私は今回中国に実際に足を踏み入れてみて驚きと発見の連続でした。

最初は初めての海外ということもあり、不安でとても緊張していました。ですが、行ってみると中国の方のおもてなしの凄さやあたたかさに驚きました。私の中で中国への印象がガラリと変わりました。

そして、仲間達と一緒にたくさんの場所に行き、たくさんのことを学び、私が一番心に残っていることは、石家庄市での第40中学校との交流です。第40中学校では、生徒達と一緒に授業を体験したり、教室を見たりしました。日本の学校とは全く違って驚きました。生徒の皆さんとの交流では積極的に話しかけてきてくれて、言語の違いはあるけれど、表情、ジェスチャーで気持ちを伝えてくれました。国や言語が違って人と人とのつながりは思っているよりも近い存在だと思いました。

また、北京で行った万里の長城も印象に残っています。みんなで一緒に万里の長城に登り、その景色を一望できたことはとてもすごい経験でした。

そしてこの経験で気づいたことがあります。これまでの私は画像で見たものが全てだと思っていた。万里の長城も「長い！大きい！」ということしか知らずにそれが全てだと思い込んでいました。ですが、実際に行ってみると画像で見るよりずっと迫力がありました。昔の人々がこのような大きな建物を作ったことにとても驚きました。



また、食文化の違いにも驚かされました。たくさんの食べ物をみんなで分け合って食べることが多く、丸いテーブルをみんなで囲み、料理を取り分けて食べるのが、新鮮で楽しかったです。そして、日本ではあまり見かけないような料理にも挑戦することができました。日本ではないような味付けだったけど本当に美味しかったです。

今回の旅で、実施に自分の目で見ることの大切さを知ることができました。今はインターネットでなんでも調べられる時代だけれど、自分で見ることで視野がとても広がると思いました。そして、些細な気づきや発見もたくさんありました。

また、今回の旅で自分の知らない世界がまだたくさんあると気づきました。中国で見た新しい世界はこれからもっといろんな世界を知りたいと思うきっかけとなりました。

そしてたくさんの縁や人々に支えられ、無事に旅を終えることができました。たくさんの方々に感謝して、この一生の経験をこれからの生活、人生にも活かしていきたいと思えます。

中国を訪問して学んだこと、感想

長野市立更北中学校 鈴木 彩々美

私は今回中国を訪問して多くの事を学ぶ事が出来ましたが、特に印象に残っている事が二つあります。

一つ目は、言葉は通じなくても分かり合えるという事です。

買い物などでお互いの言葉がわからなくてもジェスチャーを使うなど、相手にどうすれば伝わるか一生懸命考えながら行動をすれば、相手もこちらの考えをわかろうとしてくれ、お互いに伝えたい事を伝え合う事が出来ました。

二つ目は、何事も実際に経験してみなければわからないということです。

今ニュースなどを見ると中国に対して「怖い」などマイナスの印象がある人が多いと思います。私も中国に行く前は不安な気持ちがありました。しかし実際に行ってみると、困っている時に声をかけてくれたり、買い物の時などはスマホで通訳を出して伝えてくれたりと、実際に行く前の印象とは全く違いました。今の時代インターネットで調べればなんでも知る事ができます。でも実際現地に行かなければわからない事、感じられないことがたくさんありました。

他にも訪問中に学んだことはたくさんあります。今回行きたくても行けなかった学校の仲間や、中国に対してマイナスのイメージを持っている人達に、学んだことや感じた事、中国の歴史や文化などを伝えていきたいです。

今回の訪中で石家庄市の方々と交流できたことは、とても貴重な経験となりました。

中国訪問の機会を与えていただきありがとうございました。



中国を訪問して学んだこと

長野市立戸隠中学校 大日方 希羽

今回の訪問は家族に強く勧められ参加を希望しました。最初は、仲良くなれなかったらどうしよう、どんな話をしたらいいかなど不安が沢山ありました。でも実際に行ってみたら、飛行機の中で好きなものについて話をしたり、自分の学校、先生の事などたくさん話すことが出来ました。今回私は、飛行機に乗るのは初めてでした。行く前の楽しみのひとつが飛行機だったので、2、3時間機内で食事や映画を楽しみました。

日程の中で一番の楽しみは、動物園でした。パンダを見たいと思っていました。パンダをゆっくり見ることが出来て、たくさんの写真を撮りました。至近距離で見れ、想像以上に動くぬいぐるみのようでした。チンパンジーやオラウータンは、思ったよりも可愛く、活動的でした。ホワイトタイガーやライオンもいて、日本の動物園とは違い、広いところにいて活動的です。またクロヒョウや狼など初めてみる動物に興奮しました。鳥小屋にも行きました。たくさんの鳥がいて鳴き声が響き、鳥の世界に入ったようでした。鳥小屋では、鳥に餌やりをしました。手に餌を乗せたら鳥が手にやってきて、痒かったけど可愛かったです。初めてこんなに近くで鳥を見ました。久しぶりの動物園で活動的に動く動物を見たり、鳥と触れ合ったり貴重な体験をしました。

伝統衣装体験では、漢民族衣装体験をしました。自分で好きな色の衣装を選んで、メイクをしてもらい、髪の設定をしてもらいました。衣装を着て、石家庄市の観光地を散策しました。少し恥ずかしかったけど、まるで自分が漢民族になった気分です。街中を歩きました。

世界遺産の万里の長城では、テレビで見ているものとは迫力が全然違い、道が永遠に続いているようでした。景色が良くて、写真を撮るの楽しさを知りました。北方民族の侵入を防ぐ防壁やシルクロード貿易を守るために作られたそうですが、遠くまで見渡せたり、山道を歩くより道も整備されていて作られた意味を実際歩いて知ることが出来ました。故宮博物院や鉄道に乗車の際では、入場管理や保全の審査が厳しく、厳重に守られていることが分かりました。

食事は中国訪問に行く前の研修で残すことがマナーと教えてもらって、日本の食文化の違いを感じました。中国の食事は香辛料が使われていて、普段食べ慣れていないので少し苦手でしたが、円卓でみんなで食べる食事は楽しくて、苦手な料理も美味しく感じました。

買い物の時間は多くとってもいい、お菓子や雑貨を見ることができ楽しかったです。その中で、

中国の本屋さんに寄ることもでき、日本のマンガの中国語版がたくさんありました。ショッピングモールに行った時は日本のアニメショップのような物や、等身大パネルなどもあり大興奮でした。こんなところで日本アニメの人気を再確認しました。

この中国訪問を終えて、中国のイメージが変わりました。行く前はテレビであまり良くない情報を見ていたので、不安でしたが、実際行ってみると親切だし私たちを温かく歓迎してくれました。街中でも、親切に対応してもらいました。石家庄市の街中も清潔で過ごしやすかったです。行ったメンバーとも仲良くなれ、今でも交流が続いています。

1ヶ月後、日本と中国の関係が悪化したとニュースで見ました。せっかく、友好都市として交流しているので、この先も交流が続き、日本の良いところ、中国の良いところを多くの人に知ってもらう機会をこの先も続けて欲しいです。

中国を訪問しての感想

長野市立大岡中学校 久野 媛子

私は中国へ行くと決まったとき、私はずっと行きたかった海外に行ける喜びとあまりいい印象のない中国へ行くという不安がありました。しかし、家族や先生方、現地で暖かく私達を歓迎してくれた中国の方々のおかげで私は中国で充実した七日間を過ごすことができました。私が中国にいて印象に残っていることは中国の方の優しさです。

私達が訪問した第 40 中学校では、みなさんが私達を盛大に歓迎して、中国の伝統的な踊りを披露してくれました。また音楽の授業を見学しているときには、英語でどのような授業をしているのかなどを丁寧に教えてくれたりしてくれました。他にも、私がお土産を購入する際には翻訳機や電卓を使って値段を知らせてくれたり「どこからきたの？」と話しかけられたりしました。私が訪中に行く前に抱いていた中国へのイメージとは大きく異なって、中国の方はとてもフレンドリーですごく親切でした。

また私は訪中を通して中国の歴史を学びました。万里の長城や天安門、故宮博物院などの世界遺産では教科書にはないようなことがたくさん知れ、街を歩いているだけでも中国の伝統や文化、習慣を学ぶことができました。

私はこの7日間でたくさんのことを学び、交流することができました。日本では体験できない貴重な体験をさせてもらったりなど充実した一週間を送ることができました。このような機会をくれた皆様、訪中団の皆さん、ありがとうございました。

中国を訪問しての感想

長野市立長野中学校 馬場 結子

私は中国を訪問して多くのことを感じ学びました。中でもとくに印象に残ったことは3つあります。

1つ目は、現地の人々がとても優しいということです。私は中国に行く前までは、テレビで見るニュースなどから中国の人は冷たく頑固な人だと勝手に思っていました。しかし、それは全くの勘違いで、実際はとてもフレンドリーで温かい人達ばかりでした。例えば、お土産店で私の欲しいものが見つからず困っているときに店員さんに声をかけたら、スマホを取り出し、翻訳機能を使ってどんなものが欲しいのかを聞こうとしてくれました。さらに、訪問した中学校の生徒さんと校内を見学したときには、次はどこに行きたいか、好きなものは何かなどたくさん質問をしてくれました。そのおかげで緊張がほぐれ楽しい時間が過ごせたとし、相手のことをよく知れることができました。

2つ目は文化の違いです。昼食は様々なお店の料理を楽しんだのですが、食べきれないほどたくさんの料理が出てきて、大きな机を料理のお皿で埋めてしまうほどでした。日本では残さず食べることが礼儀とされていますが、中国では残さず食べると量が足りないということになり無礼に当たるため、たくさんの料理が出されます。そこに文化の違いを感じ、私はカルチャーショックを受けました。また、日本の喫煙所は個室で煙が外にでないようになっていますが、中国の喫煙所は路上のゴミ箱の上にタバコの吸殻を捨てるところがあるだけです。そのため、路上喫煙のように煙が流れて来ることに、わたしは嘔然としました。しかし、それは中国の文化とも言えるため、最初こそ驚いたものの、日を重ねるにつれて慣れていきました。

3つ目は建物や人の数のスケールが桁違いだったということです。私が訪れた石家庄市第四十中学校は、全校生徒が約 2000 人で校舎がオフィスビル6～7棟分ほどありました。体育館にはランニングマシンや巨大なボルダリングなどが完備されており、すべてが大規模でした。バス移動の車窓からは何階建てかわからないくらいの特大サイズのビルが 10 棟ほど隙間なく並び、あっけにとられました。また北京市内には、乾隆帝が母の還暦を祝って造営した頤和園という庭園もありました。広さは東京ドーム約62個分もあり、1日では到底歩ききれないような規模でした。私が回ったところはほんの一部でしたが、大きな人工湖や雄大な自然など、華やかな都会とは違った景色もありました。

このような経験から、インターネットやテレビの情報だけで判断せず、実際に現地に赴いてその情報を確かめる大切さと、言葉が違う人と交流する楽しさを知りました。今回の派遣で私は自分の目で実際に見るまで本当のことはわからないと思いました。今後、他の国でもこうした視野が広がる経験をさらにしたいと思いました。

旅の日めくり

【10月18日（土）】

長野市立篠ノ井西中学校 今井 悠人

10月18日の7時55分、長野駅で長野市中学生友好訪中団の出発式が行われました。各学校の先生や校長先生も見送りに来ている中、東京に向かう新幹線に乗り込みました。そこからは、新幹線の窓の中から見える景色を楽しんでいました。新幹線の中では各自持ってきたお菓子などを食べて楽しんでいると、羽田空港第三ターミナルまではあっという間でした。でも、新幹線を降りてから羽田第三ターミナルにつくまでは電車の乗り換えや駅の間の移動がとても忙しかったので東京の景色を楽しむ暇もなく羽田空港第三ターミナルに到着しました。空港についてから入国審査を通過するのにとても時間がかかってしまい、そのあとに飛行機に乗り、北京首都国際空港に到着しました。飛行機に乗るのは初めてだったので機内食やアナウンスなどの小さなことでも貴重な体験になりました。北京空港に到着してからは中国の外事弁公室の方が買ってきてくれたハンバーガーを食べながらホテルまでバスで移動しました。最初の説明会や出発式、飛行機の中では訪中団の仲間たちとは少し距離があったものの、北京空港からホテルに向かうまでのバスの中では全員が仲良くなっていました。

【10月19日（日）】

長野市立長野中学校 馬場 結子

10月19日、滞在2日目の午前中は、正定県陽和楼で漢民族伝統衣装体験をしました。陽和楼は、演劇の中心地として栄えた場所です。

まずはメイクスタジオに行きました。メイクをしてもらったあと、自分で衣装を選び着替えしました。メイクは雑誌やテレビなどで見るナチュラルなものではなく、とても華やかなメイクでした。様々なファンデーションを何十にも重ねて塗り、つけまつげをし、顔にキラキラしたシールをつけてもらいました。完成した自分の顔をみると、私ではないようで衝撃的でした。髪型は、まず自分の髪の毛を束ねて後頭部に固定されました。つぎに、髪の毛の束を頭上にたくさん載せられました。そのため頭がとても重かったです。衣装は淡い色のものが多く、生地が薄くて天女が着ていそうな素敵な衣装でした。

写真を撮ったあとは、陽和楼の見学をしました。建物は赤や青などの鮮やかな色のものが多く、華やかでした。ほとんどが石造りで歴史を感じました。

お昼ご飯はリブ（中国語で「排骨」）で有名なお店でお昼ご飯を食べました。テーブルいっぱいさまざまな料理が食べきれないほどありました。日本人好みの味付けのものも多かったけど、八角のようなスパイスの効いたものは、引率の先生以外は私も含めみんな少し苦手なようでした。

午後は河北博物院にて中国の漢の時代頃の様々な歴史的な展示物を見学しました。ナイフや置

物など種類が豊富でした。多かったものがお酒を飲むための壺やお酒を飲んで遊ぶときに使ったサイコロといったお酒に関わるものです。昔の中国の人はお酒がそれほど好きだったのかなと想像しました。

夜は石家荘市市長表敬訪問をしました。そこでは市長さんの前で中国で学びたいことについての作文を通訳してもらいながら読みました。とても緊張しましたが、市長さんはとてもあたたかい目線で聞いてくださいました。

この一日だけでも様々な中国の伝統的な文化や品物を見学・体験できました。とても貴重な経験になりました。

【10月20日（月）】

長野市立更北中学校 鈴木 彩々美

私達は石家荘市内にある第四十中学校に訪問して来ました。

私達が住んでいる長野県や日本の学校とは比べものにならないくらいとにかく何もかもが大きくて驚きました。全校生徒は1000人超え、そして校舎は一番高くて11階建です。さらに食堂は地下にありました。日本とは違いバイキングになっていて自分の食べたいものをとっていく形式です。

さらに、自分の学びたい授業を選択し学ぶことで学習の意欲が高まるとおっしゃっていました。選択授業の中には靴を一から作る、生物の解剖、3Dプリンターを使用する授業など様々な分野がありました。

中学生はとてもフレンドリーで、同じ中学2年生なのにとても英語が流暢で、日本語を喋れる生徒もいました。

次に市長への表敬訪問の後歓迎会を開いていただきました。

表敬訪問では中国と日本の友好関係のお話しや歓迎の言葉をいただきました。

その後とても豪華なご飯をみんなでもいただきました。



長野市立戸隠中学校 大日方 希羽

3日目の10月20日は、石家荘市第40中学校へ訪問しました。

まず最初に中学校を見た時、全校生徒が約1200人ということで、校舎に入ったら迷子になるほど大きくて驚きました。中国の中学校の先生に案内してもらい教室を見ました。パソコンの台数も多く、3Dプリンターがあったり教室のインテリアが近未来な感じがしました。また、体育館、

グラウンドに加えジムやランニングマシン、フェンシングの施設があり、運動が上達するための設備が整っていました。

生徒との交流では、天空の城ラピュタの君をのせてを歌いました。中国の中学生が歓声をあげて喜んでくれました。

また、中国の中学生からは歌と踊りの披露がありました。歌と踊りが皆揃っていて上手で、歓迎のために毎日練習しているんだなあと感じうれしかったです。

体育の授業を一緒に受けました。体育の授業ではバスケットボールをしました。準備運動では腹筋、腕立てといった筋トレをしましたが、中国の生徒は簡単に出来て、私はスピードについていけず運動不足を感じました。

その後、昼食を一緒に食べました。日本の給食と違い、ビュッフェ形式です。私は片言の英語で話しながら食べました。お土産に日本のお菓子を渡したら、すごく喜んでくれました。中学校訪問の後に、卓球訓練基地いきました。卓球施設には、小学生ぐらいの子から高校生ぐらいの人がいて、みんなテレビで見るオリンピック選手ぐらいのレベルでびっくりしました。対戦したけどレベルが違いすぎて本気で取り組んでいる様子が分かりました。中国に行く前、言語が伝わらないという不安があったけど、中国の中学生がフレンドリーで英語で話しかけてくれて打ち解けることができました。でも、もう少し英語ができればもっとコミュニケーションが取れ楽しいだろうなと思いました。これからは英語に力を入れ学習していきたいです。

【10月21日（火）】

長野市立裾花中学校 小林 香介

今日は、石家庄市を離れ北京へ移動しました。午前中は石家庄市、最後の訪問先、石家庄市動物園に行きました。二百万平方メートルという広大な面積をもつ動物園をバスを使い移動しました。中国ならではのパンダやフラミンゴ、ゴリラ、ゾウなどがいました。インコが手に乗って餌を食べる、餌やり体験もさせていただきました。最後にはレッサーパンダも見ることができました。

午後は北京への移動です。石家庄市に来る時に乗った、高速鉄道で移動しました。石家庄市駅では空港と同じくらい警備が厳しく、何度もパスポートを見せたりと大変でした。約一時間で北京につきました。

北京につくとバスで三十分程移動したらすぐに王府井視察です。日本の商店街のような所に高級店がずらりと並んでいました。途中によった本屋は一つの大きなビルが全て本屋になっており、たくさんの中国の本がありました。その中には日本の有名なマンガや絵本も多く置かれていて一緒にまわっていた友達ともおどろきました。買い物をした後のお会計の時に財布が見つからず時間がかかってしまいました。そんな時にレジの方が優しく声をかけていただきました。翻訳アプリを使って一緒にさがしてやっとの事で見つけることができました。中国と日本のつながりを感じることもできて、中国の方の自然な優しさにも触れる事ができました。

【10月22日（水）】

長野市立三陽中学校 岡田 貫汰

この日は元々万里の長城に行く予定でしたが、スケジュールの都合上急遽天安門広場、故宮博物院、そして天壇公園の視察になりました。この日も朝からホテルの料理をいただき、いざ目的地へ。現地の警官による厳しいセキュリティチェックを通過して中に入りました。中は平日にもかかわらず多くの人が。歩いていくうちに、テレビでよく見る光景が広がっていました。やはり、実際に見たことのある光景を生で見るとテンションが上がりました。次に、橋を渡り門をくぐるとそこには故宮博物院へ行くための長い行列が。今度はその列に並び故宮博物院へ行きました。故宮博物院にはたくさんの歴史的建造物がずらりと立ち並んでいました。ここでも一つ一つの建造物に対し外事弁公室の方が説明してくれました。おかげでどんな建物なのかがよくわかり非常にためになりました。故宮博物院の視察が終わると次に大柵欄という飲食店が立ち並ぶエリアに来ました。どこも平日とは思えないほど人がごった返していましたが、なんとかお店を見つけていただき昼食。ワンタンのスープをいただきました。寒い秋の北京市を歩いた体に染み渡りました。次に、バスに乗って天壇公園に。ここも多くの観光客の姿が見受けられました。その後、少し早めの夕飯を食べ買い物をし、ホテルに戻りました。

長野市立川中島中学校 高山 夢叶

10月22日は天安門広場と故宮博物院、天壇公園に行きました。天安門広場では警備がとても厳重で本当にたくさんの人がいました。ですが、それだけ天安門という場所が中国にとって大切な場所だということをしれたし、画像では見たことがあったけれど、

間近に見るととても綺麗でした。やっぱり、実際に見なければわからない気付きもたくさんある

と感じました。故宮博物院と天壇公園は全く知らなかったのですが、日本には全くないような建物でおどろきました、建物も大きくて「公園」や「博物院」と言っていますが、思っていたものと違い、装飾がたくさん施されていてとても綺麗でした。石家荘市から北京に移動して、1日目ということもあり、緊張もしていたし、すごく舞い上がっていました。北京の人の多さにほんとうに圧倒されました。

このひは、中国の歴史を知ることができたし、貴重で大切な経験ができました。



【10月23日（木）】

長野市立櫻ヶ岡中学校 丸山 心陽

万里の長城

万里の長城に行った。みんなで寒いと思ってジャンパーや、マフラーを仕込んで登ったら、意外とあったかくて汗をかいたけど眺めがすごく綺麗でとても感動しました。中国の世界遺産がこの目で見れて本当に嬉しかったです。頂上までは、長くて登れなかったけど、それでも凄さが伝わってくるぐらいの迫力があって満足しました。その後に食べた中国のケンタッキーは疲れた分、すごくおいしく感じました。特に美味しかったのは、エッグタルトです。その後中国のタピオカも飲めて最高でした。

中国の歴史が感じられる良いところでした。

長野市立東北中学校 松本 ゆらら

北京市見学

10月23日木曜日は、万里の長城、頤和園に行きました。

万里の長城はすごく長い距離ということは知っていましたが、詳しくは知りませんでした。ですが、訪中団で手を取り合って半分より上まで行くことが出来ました。すごくつかれたけど、その先には見たことがないぐらいのきれいな景色が広がっていて、頑張って良かったなど、みんなで幸せを感じることができました。

昼食を食べた後は頤和園へ行きました。頤和園は観光客がとても多く、すごくにぎわっていました。その中でも美しい景色や広大な庭園を見ると、自然と気持ちが明るくなりました。にぎやかで歩くたびに景色がガラッと変わり、中国の魅力を強く感じる場所でした。

貴重な経験がたくさんできて、濃い一日でした！



【10月24日（金）】

長野市立大岡中学校 久野 媛子

最終日、朝5時にチェックアウトし、お世話になった現地の方々に別れの挨拶をして、8時には中国を出国しました。たくさんの思い出ができた中国に別れを惜しむ声が多く聞こえました。4時間ほどのフライトで無事に羽田空港に到着し、その後は電車の乗り換えを繰り返し、長野駅まで到着しました。

私達はこの一週間色々な場所を見学し、たくさんのことを学びました。また、異国の中国で初めて経験することが多く、伝統や文化、習慣などを知り、一日一日すごく充実した日々を送ることができました。

最後にこのような機会をくださった皆様ありがとうございました。

あとがき

第 40 回長野市中学生友好訪中団員と関係の皆さまへ

学校教育課 牧野 健一

訪中団の皆さんは、一緒に 7 日間を過ごした仲間の作文を読み、改めて、今回の中国訪問を振り返り、どのような感想を持ったでしょうか。石家庄市や北京市で過ごした日々が、まるで昨日のように思い出されたのではないのでしょうか。

私たちは、中国への渡航前に 3 回の学習会に参加しました。学習会では、訪問先のあいさつや係の分担を決めたり、石家庄市の中学校訪問で歌う曲の練習、中国語のあいさつや自己紹介を学んだりしました。はじめの頃は、皆がよそよそしさのある硬い雰囲気でしたが、回を重ねて少しずつ話し声が大きくなり、時には笑い声が聞こえるようになりました。渡航前に顔を合わせる時間は短いながらも、皆さんが調べたことを話したり、教えたり、協力している様子を見て、私は、仲のよいグループになると感じました。

ここで、中国訪問中に皆さんの様子を見て、私が特に感じたことを記します。

まず、皆さんの中国訪問への意識の高さです。皆さんは、中国に渡航する前に、文化や言語の違いを肌で感じたい、視野を広げたい、訪中の経験をこれからの生活に生かしたい、学校で訪中の経験を伝えたい、などの目標を書いてくれました。皆さんは、石家庄市第 40 中学校や卓球訓練基地での交流、歴史的な街なみや建造物の見学、盛りだくさんのおいしい食事、街なかでの人々の会話や鳴り響くクラクションなど、日本と中国の違いや同じところをどれも五感で実際に体験し、それらを写真や動画に収めたり、説明をノートにとったりして記録に残していました。このような皆さんの姿を見ると、自分で立てた目標を忘れずにいることが感じられました。

次に、皆さんの積極的な姿勢です。私は、石家庄市第 40 中学校の訪問で、一緒に給食を取っているときの長野市と石家庄市の生徒のお互いに打ち解けたにぎやかな雰囲気が、強く印象に残っています。積極的な石家庄市の生徒たちに少し圧倒されながらも、それに応じようとして、物おじせずにコミュニケーションを取っている皆さんの姿を見て、若い同年代の人たちに国や言葉の壁などないように感じました。

そして、今回の訪中団に仲間意識ができたことです。中国滞在中は、いつもまとまって行動しました。どこへ行っても多くの人がいる中で、歴史的な建造物を見学するとき、街なかを歩くとき、食事をするとき、皆さんは、はぐれないようにお互いに声を掛け合ったり、忘れ物がないように確認したり、一人にならないように話しかけたりと、周りの仲間のことも考えて、一人一人ができることを自発的に行動に移してくれました。

また、長野市に帰る日が近づくにつれ、皆さんから仲間との別れを惜しむ言葉が多く聞かれるようになり、中国を離れる前日の夕食のとき、皆さん一人ずつから、ずっと付き添ってくれた石家庄市外事弁公室のお二人にお礼を伝えていると、一人一人の言葉にうなずき、涙する姿を見て、石家庄市外事弁公室のお二人に大きな親近感を抱いていることはもちろん、仲間の言葉に共感し

ていることが感じられ、今回の訪中団の一体感を感じました。

終わりに、こうして中国訪問を振り返り、その歴史や文化の一端に触れた濃密な日々が、皆さんにとって、いつまでも輝き、かけがえのない財産になったらうれしく思います。そして、今回の訪問をきっかけにして、皆さんが、何かやってみたいという気持ちを抱いたり、石家庄市をはじめ、長野市の国際交流のかけ橋になってくれたらうれしく思います。

また、今回の中国訪問に当たり、保護者や石家庄市外事弁公室の皆さまをはじめ、多くの方々にご協力をいただきました。第 40 回長野市中学生友好訪中団を支えてくださいました関係の皆さまに心からお礼を申し上げ、あとがきとします。